

そこで語学研修と国際交流を結びつけた「外国語・異文化教育センター」なるものを教官同士で話し合いました。そして、そのセンターの設置場所として、函館が一番ふさわしいのではないかという事になりました。その根拠としては、外国との交流面で古い歴史がある事、その土壌の上に育ってきた各国との交流協会など市民意識の高い町であるという事です。このセンターでは集中的な日本語教育と外国語教育、子供を対象とした語学訓練、市民レベルの外国人との交流の場などに活用出来ればと考えています。

(会報担当者：高野 義雄 委員)

函館の街で、最高のおもてなしを…



函館国際ホテル

〒040-0064 函館市大手町5番10号

TEL(0138)23-5151(代)

<http://www.hakodate.ne.jp/kokusaihotel/>

(広告掲載：竹谷 満 会員)

◎ 4月10日出席報告

会 員	51名	出席率対象会員	49名
		出席規定免除会員	2名
当日出席	31名	当日欠席	18名
他クラブ出席	9名	出席合計	40名
出席率	81.63%		

・ テレフォンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

次回・5月15日

「早朝例会」

プログラム

函館国際ホテル 午前7時



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2001~2002年度 国際ロータリーテーマ

国際ロータリー会長 リチャード D. キング

人類が私たちの仕事

MANKIND IS OUR BUSINESS

荻下 義晴 会長テーマ 『楽しみと親しみのある出逢い・そして感動』



4月24日卓話 上山 恭男 氏

《第1870回例会》 第40号 5月8日(水)

本日のプログラム

新入会員卓話 「函館市の木造老朽校舎建替事業について」

函館市市民部交通安全課課長 紫前 雅夫 会員

★会 長 荻下 義晴

★幹 事 藤野 明信

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
 例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870

4月24日の記録

◎司 会 数下 義晴 会長 ◎斉 唱 我等の生業

◎ビジター 北海道教育大学教授 上山 恭男 氏
函館R.C. 福田 功 君・船瀬裕敏君・木村英夫君・加藤健太郎君、
函館東R.C. 平形隆司君・明本修一君・黒島一生君、
函館五稜郭R.C. 當摩浩平君・最上 淳 君、
函館亀田R.C. 田中 仁 君

◎会長報告 数下 義晴 会長

- 中野会員のご尊父様が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
- 10・11グループ会長幹事会報告

◎中野 亮 会員

亡き父の葬儀に際しては、数下会長をはじめ多数の会員にご参列いただき、有難うございました。

◎委員会報告

●副会長報告 小笠原 孝 会長エレクト

次年度委員会委員の内、会計に野田義成会員、親睦委員会副委員長に柴崎晃会員となりました。

●職業奉仕委員会 北村 祐治 委員長

職業奉仕の理念をまとめた冊子の中に字句のミスがありましたので訂正願います。

◎幹事報告 藤野 明信 幹事

- 当クラブ5月15日の例会は午前7時より早朝例会として行います。

◎親睦活動委員会 成田 豊 委員

ニコニコBOX投入報告

数下会長・藤野幹事・南木会員・大和会員・山下(宜)会員・成田会員・高橋会員・小笠原会員・中川会員・西尾会員・増山会員・増田会員・佐々木会員・高田会員・柴崎会員・川村会員……BOXに協力。

中野 会員……父の葬儀に際しまして有難うございました。

藤田 会員……上山先生をお迎えして。

小池 会員……見なれない人がすわっていたので。

北村 会員……南木さんの一声で。

松橋 会員……湯の川温泉の副理事長退任、相談役になりました。

◎卓話 「函館校の国際交流、過去・現在・そして未来」

北海道教育大学 教授 上山 恭男 氏

北海道教育大学は5分校に分れていて、それぞれが海外の姉妹校と国際交流を進めて来ました。

函館校と提携しているのは、中国の山東師範大学、オーストラリアのシドニー工科大学、カナダ・ハリフォックス市にあるセントメリー大学の3校です。他にカナダのカルガリー大学とも交流があります。

1988年までは、英語科の学生が時折りアメリカの大学に留学する程度でしたが、1989年から2年間かけて、1億円の国際交流事業基金づくりを行った結果、これを利用して渡航する留学生・研修生が増えました。留学期間は、セントメリー大学と山東師範大学が8ヶ月間研修と1ヶ月の短期の2種類、シドニー大学は、11ヶ月間となっています。

派遣する留学生の数は、セントメリー大学の場合1990年からは毎年20名前後でしたが、バブル期以後は減少しています。山東は1993年から、シドニーは1997年から数名ずつ留学しています。

一方、受け入れる留学生数は、3校合しても多い時で1年間に10人前後、大体1桁の人数で、圧倒的に教育大生の留学が上回っています。この背景としては、海外の学生は自分のお金で勉強している事による経済面、又日本に対する認識が浅く関心が薄いという面もありました。ところが、ここ数年は日本の文化や日本語に対する興味が高まって来たのでしょうか、少しずつ増えてきています。シドニー工科大学からは国際学研究所の学生が、山東からは日本語学科の教員がやって来ています。

姉妹校への教職員の派遣もあり、函館校からはセントメリーズ大学へ毎年1名、他の2校には2~3ヶ月の短期派遣が時折り行われています。相手方からは、数が少なかったり、事務手続きや学生の様子を見るための数日間の滞在で研究面での交流が少なく、課題の1つです。

大学は現在、大学改革の中で大きく揺れ動いています。こうした中で、国際交流の未来を語る事は難しいのですが、残念ながら現在、道教育大には留学センターなるものはありません。